



Photo:中村光紀

高田博厚没後三十年記念イベント

思索の灯

S H I S A K U N O H I

2017年6月17日(土) 開場12:30
13:00~16:00

On June 17, the anniversary of his death

主催:東松山市教育委員会

第二部 コンサート

第一部 講演

朗読・弦楽・ピアノによるファンタジー
—高田博厚と彼をめぐる詩人・作家たちの文章から—
出演

妻沼絢子(朗読)
井村果奈枝(チェロ)
高橋在也(ピアノ)
石原麻伊(絵画)

指で思索すること—高田博厚の生涯と思想—
浅見 洋(石川県西田幾多郎記念哲学館館長)

彫刻のモデルになる
室町澄子(元NHKラジオ深夜便アンカー)

ロマン・ロランと高田博厚—新発見の日記・書簡から—
高橋 純(国立大学法人小樽商科大学名誉教授)

第一部 講演



【哲学】浅見 洋(石川県西田幾多郎記念哲学館長)

ロマン・ロランの「高田は精神を形づくる本当の芸術家です。彼は指で思索する」という言葉には、彫刻家であり、文筆家であった高田博厚の生涯と思想が見事に表現されています。石川県西田幾多郎記念哲学館内の展示室には高田の手になる西田のブロンズ像が置かれています。このブロンズ像を通して、「指で思索する」という言葉の意味、近代日本を代表する彫刻家・高田博厚の人生とその芸術論について考えてみようと思います。



【モデル】室町澄子(元NHKラジオ深夜便アンカー)

NHK総合テレビ「女性手帳」の番組収録が縁で頻繁にお会いするようになり、思いがけなく依頼されてモデルを務めることになりました。番組収録時に当時インタビューで交わした言葉や、何度も通ったアトリエでお聞きした話を中心に、生前の高田博厚さんと交流のあった者として、氏のエピソードやそこから伺われる人柄についてお話します。



【フランス文学】高橋 純(国立大学法人小樽商科大学名誉教授)

高田博厚は日本を代表する彫刻家としてと同時に、優れた文筆家としてもその才能を発揮した間口の広いアーティストでした。しかしこの評価が決して過去のものではないことは、今現在の私たちが彼の作品に対面するときに、一人ひとりの鑑賞者・読者の裡に起こる傑出した精神との出会いとして実感されるはずのものです。その鑑賞者・読者の一人として、突飛でありながら感動的な私独自の高田博厚遭遇体験をお伝えしたいと思います。

第二部 コンサート



朗読と音楽、絵画
によるファンタジー



宮沢賢治、西田幾多郎、ロマン・ロラン、ジョルジュ・ルオー…、高田博厚は、同時代に生きた日仏の作家たちの彫刻を多くつくりました。そうした彫刻は、単なる「似ている」肖像という以上に、その人の思想あるいは存在感への高田なりの共感もこめられているように思います。

今回、若い世代のアーティストたちの視点から、高田の彫刻や、高田が共感を寄せて彫刻をつくった作家たちの世界観に、朗読・音楽・絵というさまざまな角度から迫ります。高田が見つめようとした世界観が、新しい照明をかりて、もう一度蘇るといいなあと思います。



高田博厚没後三十年記念イベント

入場無料

松山市民活動センター ホール

〒355-0014 東松山市松本町1-9-35 Phone: 0493-23-9311

Access: 東武東上線東松山駅東口下車徒歩15分

このイベントについての問合せ先: 東松山市教育委員会 社会教育課

〒355-8601 東松山市松葉町1-1-58 Phone: 0493-21-1431

主催: 東松山市教育委員会

2017年6月17日(土)

開場 12:30
13:00~16:00